



### • 脳炎

最もこわい合併症です。麻疹の脳炎は、麻疹患者 1000 人に 1 人の割合でおこるといわれています。麻疹の経過中、多くは発疹期に意識障害、けいれんなどがおこります。死亡率は非常に高く、後遺症を残すことも多いです。

その他に、亜急性硬化性全脳炎（SSPE）という、じわじわと恐ろしい脳炎もあります。麻疹のウイルスが脳の中に残っていて、麻疹の後数年して（平均 7 年）行動異常や知能低下などの症状が出てきます。症状は進行性で、ほぼ確実に死に至ります。

### • 肺炎

間質性肺炎といって、レントゲンをとると肺が真っ白になっていたりします。

もともと気管や肺が弱いお子さんなどでは、呼吸困難をおこし、死に至ることもあります。



### • 免疫力低下

麻疹には、細菌感染が合併（二次感染）することが多いです。肺炎、中耳炎、副鼻腔炎などです。これは、麻疹ウイルスによって、免疫力が低下させられているためです。

免疫力の低下はかなり長く続きます。

## ◎治療

麻疹のウイルスを殺すお薬は開発されていません。

二次感染を治療するために抗生物質投与や脱水症状には経口補水や点滴をします。

肺炎、脳炎になってしまった場合は、その状態に応じて、生命を維持するための治療が行われます。

もし、麻疹患者と接触してしまった場合、麻疹のワクチンを 72 時間以内に接種すれば、発症予防ができるかもしれません。また、 $\gamma$ グロブリンという、成人の血液から抽出した抗体を、接触後 72 時間以内に注射すると、発症予防、軽症化が期待できます。発症してからも、軽症化させるため  $\gamma$ グロブリンを注射することがあります。しかし、 $\gamma$ グロブリンは血液製剤なので、他の未知の病原体の感染がありうるという欠点があります。

## ◎予防

**麻疹ウイルスは感染力が非常に強く、（空気感染と言って同じ空間にいただけで感染します。インフルエンザなどの飛沫感染と違って、マスクや手洗いでは予防することができません）、予防接種以外に有効な予防方法はありません。**

予防注射は、1 歳と年長さん（就学 1 年前）の 2 回、接種します。

1 歳のお誕生日には MR ワクチンを！ 流行時期には乳児期（6 ヶ月から）ワクチンを任意で接種することもできます。



## ☆麻疹を日本で流行させないようにしましょう！



麻疹は、本当にこわい病気です。高熱が一週間以上も続き、咳もひどく目があかないくらい顔が腫れて、機嫌が悪く水分を飲ませるのも大変です。お母さん達は、皆さん口をそろえて、『ほんとに死んでしまうかと思いました』とおっしゃいます。私も小児科医になって3-4年目（1994年頃当時はワクチン接種率が低かったため）に勤務地で大流行しました。ほとんどの乳幼児が脱水や合併症のため入院治療が必要になり、病棟はまさに地獄絵図でした。実際、1000人に1人は命を落とす病気と言われてる通りでした。無事に急性期から回復しても、半年くらいは免疫力がおちて、いろいろな感染症に悩むことがあります。また、亜急性硬化性全脳炎という恐ろしい合併症の可能性が残ります。

麻疹に罹患すると、自分が大変な思いをするだけでなく、周囲に麻疹を拡げてしまうことにもなるのです。麻疹にかかったことのないすべての人が、麻疹のワクチンを2回受けること。これが達成されれば、日本の子どもたちを麻疹から守ることができます。

定期接種年齢（1歳と年長）になったら、一日も早く、MRワクチンを受けましょう。麻疹にかかったことのない人で麻疹ワクチンを1回しか受けていない人は2回目を受けましょう。記憶ではなく記録で確認を！

平成18～19年に、全国の大学で麻疹が流行し、多くの大学が休校などの措置をとりました。その後、平成24年度までⅡ期末接種世代を対象に、2回目接種（中学1年生と高校3年生を対象にMRⅡ期）などの対策により、2015年以降、日本由来の麻疹（日本株麻疹ウイルス）は撲滅されました。しかし、麻疹という病気を鎮圧できたわけではありません。今回は台湾からですが、定期的にヨーロッパやアジアなど海外から持ち込まれた麻疹ウイルスの報告があり局地的に麻疹患者が流行するというパターンを繰り返しています。

### ★1977年以前に生まれた人

→定期接種はなかったがほとんどが自然感染して抗体を持っている。

### ★1977年～1990年生まれの人

→定期接種1回世代で免疫が低い可能性のある世代。2回目接種を。

### ★1991年～

→定期接種2回世代。母子手帳を確認して2回接種の記録がなければ受けましょう。